

第 17 回 滋賀県国民健康保険運営協議会の概要

1. 日 時 令和5年2月9日（木）15時00分から17時00分まで
2. 場 所 滋賀県庁 北新館5－B会議室
3. 出席委員
寺井委員、深尾委員、岡本委員、藤井委員、高橋委員、諸頭委員、高山委員
足立委員、小林委員、瀬古委員、廣瀬委員、西田委員、寺村委員
4. 欠席委員
柳本委員
5. 事務局職員
市川健康医療福祉部長、川北医療保険課長、山田課長補佐、清水副主幹、
田中主査、西田主事
6. 会議の内容
(1) 令和5年度 国民健康保険事業費納付金等の算定結果について
(2) 第3期 滋賀県国民健康保険運営方針の策定に向けて
7. 主な御意見

(1) 令和5年度 国民健康保険事業費納付金等の算定結果について

- 財政安定化基金について、今後想定外の事態にも財政調整できるような仕組みを作っていこうとする対応は非常に重要なことかと思う。
- 5年後、10年後に保険制度を維持できているかどうか、今がその瀬戸際なのではないかと思うが、県として長期展望を持って取り組んでいるのか。
- コロナ禍の影響もあって医療への接し方がどんどん変わってきているので、県も取組内容を見直していかなければならないと思う。
- セキュリティーの強いオンライン上で診断画像をやりとりできるような環境になっていけば、それを今後普及していくことは非常に重要かと思う。

(2) 第3期 滋賀県国民健康保険運営方針の策定に向けて

- 後発医薬品については、国保、被用者保険含めて、供給問題と安心使用促進との両輪で取り組んでいくということを共通認識として持った方が良い。
- 方針を策定するのも良いのだが、それらをしっかり数字やデータに基づき検証していくということが非常に重要だ。

- 経験として、数字の変化が実感できるように保健指導をしていただけたことがあり、本当にありがたかった。
- 県でも市町でも食育にもっと力を入れていただきたい。
- 意識改革が一番重要で、いかにどのようにして病気を予防していくのかを考えていく世の中にならないといけない。
- 頭のとっぺんから爪先にいたるまで、本人が健康管理について努力しないと医療費はなかなか抑制されないので、本当に意識の向上が重要だと思う。
- いつまでも行政に頼るのではなく、自分たちの手で何とかしていこうという取組を既に始めている。
- 現役世代の方々に様々な働きかけを行うことにより、将来的な国保や後期の医療費の抑制に繋がるという想いで取り組んでいる。

以上